

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。
マタイ福音書10：42

【説教要旨】

ブラジル宣教師時代の日本の教会の執行部と折り合いが悪く、宣教師を首になって、日本に帰国し、刈谷教会に就任しました。その隣の町に知立（池鯉鮒）という町がありました。江戸時代は東海道39番の宿場町、三河木綿の集積地と栄えました。

「あくる朝、この家の主人は、いつもひえのご飯ばかり食べていたのですが、水を出してくれたありがたいお坊さんだからと、病気の時のために大切にしまっておいたお米を一握りひえにまぜてご飯をたきました。すると、炊きあがったご飯は、全部輝くような白いお米のご飯に変わっていました。知立市ホームページから」、このお坊さんこそ弘法大師（空海）だったと昔話があります。私は、それ以来、知立の米は美味しいと聞いたことがあります。

「はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」というイエスさまのお言葉からこの昔話を思い出しました。こういう昔話は、どの世界でもあったようです。

「わしとて旅の一修行僧にすぎません。」「愚僧の名は、空海です。」と言っています。聖書は、これを「わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人」と言って、イエスさまの弟子は、「小さな者」であるということです。弟子だけでなく、小さな者に心をつくし、手を差し伸べる人は必ずその報いを受けると話をマタイは広げていきます。

25:31 「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来る
とき、その栄光の座に着く。 25:32 そして、すべての国の民が
その前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼ら
をより分け、 25:33 羊を右に、山羊を左に置く。 25:34 そこ
で、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福さ
れた人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている
国を受け継ぎなさい。 25:35 お前たちは、わたしが飢えていた
ときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていた
ときに宿を貸し、 25:36 裸のときに着せ、病気のときに見舞
い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』 25:37 すると、正
しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えてお
られるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見
て飲み物を差し上げたのでしょうか。 25:38 いつ、旅をしておら
れるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでし
ょうか。 25:39 いつ、病気をなさったり、牢におられたりする
のを見て、お訪ねしたのでしょうか。』

25:40 そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの
兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてく
れたことなのである。』

私たちは小さな力ない者であるといやと知らされています。自
分たちを守ることさえ難しさを感じ、イエスさまの弟子としての
信仰者の在り方が揺らぎ、不安と恐れが私たちを支配しているの
ではないのでしょうか。そこでは私たちが何者かであろうと思っ
心、大きな力を持ってない不安と苛立ちがそうさせるのではない
のでしょうか。しかし、神の言葉を預かっている私たちは小さな者
なのです。この小ささに気づくことが大切であり、時代の激変の
中で、私たちが小さな者であるということを神は、痛いほど私た
ちに気づかせ、私たちが真実な弟子とされる恵みをくださってい
るのではないのでしょうか。それでも私たちに神の言葉が託されて
いるということです。そこに残るものは、この小さな私たちが、
冷たい水一杯でも飲ませてくれる人がいて守られているというこ
と同時に小さな者を用いて**冷たい水一杯でも飲ませてくれる人**と

なるということです。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである』という出来事、イエス・キリストに出合うのです。

「私たちが弱くなければ、キリストは私たちの上に力を行使することが出来ません。」とルターは面白いことを言っています。私たちは小さな者であり、力ない者であり、世に対して私たちは何も出来ないような存在かもしれないが、しかし、イエス・キリストにつながる私たちの行いは神の働きであるということです。この小さな働きに残されたものは無から有を創造される神の働きが起こるということです。このことを今の時代だからこそしっかりと心に持つことです。

エレミヤは神の民の滅びを預言します。確かにユダはバビロニアに滅ぼされ、奴隷として神の民はバビロニアに連れていかれます。国の滅びは滅びのままに留まらない、「アーメン、どうか主がそのとおりにしてくださるように。どうか主があなたの預言の言葉を実現し、主の神殿の祭具と捕囚の民すべてをバビロンからこの場所に戻してくださるように。」というエレミヤの祈りは、60年後、主に聞き届けられ、神の働きとなって神の民はバビロニアからイスラエルに帰還するのです。この60年間は小さな神の民は、大きな力あるバビロニアに圧倒され、苦渋を飲みつくしますが、徹底的に自分たちの在り方を顧みさせられて神の民としてのみ言葉に生きる信仰が確かなものとされます。神は無からみ言葉をもって世界を創造されたという天地創造の物語をこの時代に与えられたのです。日常が一瞬に砕けていく圧倒的力の前が私たちの前にあります。この**小さき者**は徹底的に自分たちの在り方を問われています。

はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人が私たちにいることをイエスさまは約束されています。同時に私たちは、どんなに力なき者であっても、**冷たい水一杯でも飲ませる者**とされています。共に主の弟子として一步を歩みましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

沖縄慰霊の日 6月23日



今年、「生きたいと願った証」と題した詩を朗読したのは豊見城市立豊崎中学校2年の亀谷琉奈（るな）さん（14）です。

曾祖母から戦争の話を聞いたのは5歳の頃。右太ももに「戦争で生き抜いた証し」の傷痕が残っていた。曾祖母の右足の傷は ただの傷じゃない 「生きたい」と強く願った証 「戦争は二度としてはいけない」という叫び

私はその想いをこれから先も伝えていく もう誰にも血だらけの道を走ってほしくないから もう誰にも愛する人の命が奪われることに 怯えてほしくないから もう二度と 沖縄の空を戦争で 染めてはいけないから

「沖縄タイムス社」のインターネット掲載から

その一節です。今の力任せの混沌した戦いが続くとき私たちは、「愛する人の命が奪われることに 怯えてほしくないから もう二度と 沖縄の空を戦争で 染めてはいけないから」という声を心に留めたい。

園長・瞑想？ 迷走記

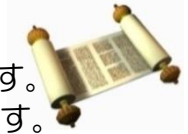
—ICT(情報通信技術 例:YouTube他)—



コロナ感染中、礼拝から始まり、感染予防に YouTube の動画を使って、手洗い励行などの感染予防注意を見ていた。今はさらに子どもたちの世界に入り込んでいる。

「『ICT を使うなんて』みたいな排除論もあるけれど、子どもたちの生活にもうすでに入り込んでいるわけだし、若い世代にもそれが当たり前。否定から入るのはもったいないと思いますね。」(保育の「ヘンナ文化」柴田愛子、大豆生田啓友 小学館)と大豆生田さんが言っているように私も同意できる。どう ICT と向かい合い、どう使っていくかを私たちは問われている。そこで若い人の発想、実行が大切になってくる。若い人から聞くのが老園長の仕事、そして自分もやる。

日毎の糧



聖書：89:2 主の慈しみをとこしえにわたしは歌います。
わたしの口は代々に／あなたのまことを告げ知らせます。

89:3 わたしは申します。「天にはとこしえに慈しみが備えられ／あなたのまことがそこに立てられますように。」

詩篇89：2－3



ルターの言葉から

ダビデは、「恵みと慈しみ」によって意味しているもの、すなわち、「主の家に永久にとどまることができること」をここで示している。

『慰めと励ましの言葉 マルティン・ルターによる一日一生』湯川郁子訳 徳善義和監修 教文館

主は、慈しみはとこしえに

89篇は、53節に及ぶ長い詩篇である。イスラエルの歴史を詠いつつ、特に捕囚以降の国家苦難の中で歴史を回顧し、詩人自身の信仰告白ともいうべき讃歌があり、ヤーウエの慈しみとまことに言及する。

これが冒頭の「主の慈しみをとこしえにわたしは歌います。わたしの口は代々に／あなたのまことを告げ知らせます。」となって私たちに伝えます。

この詩篇にはダビデ王朝のような力なる王朝の復活を望みつつ、逆にダビデ王朝に批判的で、人の力で人を幸福にするのではなく、真の王は神であると詠い、冒頭で、その神は慈しみに満ち、私たちを守られる神だと高らかに歌います。

神の慈しみこそ私たちを確実するという思いから次のような祈りとなって、詠われます。

89:3 わたしは申します。「天にはとこしえに慈しみが備えられ／あなたのまことがそこに立てられますように。」

神の慈しみに委ねていくことが初めであり、終わりです。

参考：「詩編の思想と信仰Ⅳ」 月本照男 新教出版

祈り：主の恵みと慈しみに硬くたって、大変化する時代を生きてゆくようにしてください。アーメン。

甘木通信

4:9 ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。 4:10 倒れれば、ひとりがその友を助け起こす。倒れても起こしてくれる友のない人は不幸だ。 4:11 更に、ふたりで寝れば暖かいが／ひとりでどうして暖まれようか。 4:12 ひとりが攻められれば、ふたりでこれに対する。三つよりの糸は切れにくい。人間にとって最も幸福なのは、喜び楽しんで一生を送ることだ、と。



コヘレト4：7～12

巡礼ということが宗教的ゴールのように思える。終わりも近づいているので、巡礼を行いと思いが強くなっている。キリスト教世界ではエルサレム巡礼、サンチアゴ巡礼、バチカン巡礼があるがどう日本人である私にはしっくりといかない。そこで日本各地の長崎、大分、山口、名古屋、静岡、東京のキリシタン殉教の地を私は訪ねた。福岡、熊本にもあるはずだと思う。長崎巡礼で、いま訪ねてないのは五島がある。巡礼は神の前に立って、神と対話（祈り）しつつ、コヘレトの言葉をキリスト教的にいうと二人とは、友とは、神であり、イエス・キリストではないだろうか。巡礼の旅にあって、友であるイエス・キリストを感じて、神の恵み、慈しみを数えていくように思う。人間にとって最も幸福なのは、喜び楽しんで一生を送ることだとはイエス・キリストと一緒に歩いていく喜びと楽しみのように思える。他の人に迷惑をかけないうちに同行二人、イエス・キリストと歩みたくなっている。四国巡礼も行きたい。

(甘木日記)土) 甘木一泊。雨で油断していたが蚊がぶんぶん。今日は礼拝堂の横部屋はなんだか息苦しい。日) 礼拝のユーチューブ、マイクの調子がうまくいかない。午後はゆっくりと過ごし、帰りに花の苗を購入。楽しくなりそう。月) 教会の庭にポーチュラカ、マリーゴールド、鉢にインパチェンスを植える。保健所に食品衛生取扱者講習会の申し込み火) 日善幼稚園から帰って来て、ごろん、ごろん。水) 久留米は雨が強いという程度だが、同じ筑後地区でも大変そうなところがある。無事に園も終わり、最後に大雨の中を帰宅。木) 松崎保育園、なぜ青紫陽花は赤紫陽花に変わったかを話す。明日は台風の影響でどうなるか分からず主日の準備。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）昼までに甘木教会へ。一泊。午後から「キリスト教講座」、6名の参加者。モーセの一生を共に学ぶ。モーセに今のキリスト教の起源があることを再度、確認。雨が降ったり、止んだり。雨の合間を見て、ポーチウチカを植える。最後は土砂降りの雨で一日が終わる。疲れて早く寝る。日）早朝に起きると晴れている。週報などをインドネシア語にグーグル翻訳していなくて慌ててする。礼拝後、今日は何もすることなくゆっくりと信徒さんと茶話。久留米に帰るとき信徒さんの車で送っていただく途中、ホームセンターにより花壇の花の苗を購入。頭では夏花壇の設計は出来ているが。オルガンコンサートの奏楽者の高橋さんにお礼の電話、手紙を書く余裕もなくやっと、電話でお礼を言う。先週は芯から疲れ、思っても何も出来ずにいた。主に委ねよだ！月）休みだったが、昨日、購入した花の苗を植えに甘木教会へいく。甘木教会も、聖和幼稚園も色々と食品を扱うので保健所に食品衛生取扱者講習会の申し込みに行く。一日の講習だがこの頃、何物にも挑戦するのがおっくになって不安である。傘をも違って持っていかれた。久留米に帰宅途中リングアットでチャンポン。火）東京の大変に大切な方が腸閉塞を再発されたとお姉さんから連絡があり、本人が会いたいと言うのでと連絡。また電話をいただいていたTさんに電話をすると入院をされていたということ、年々、みんな変わっていかれる。雨が強くなっていく。市役所に園のことで出かける。傘を購入。水）朝から雨が激しくなっていく中を幼稚園の前で、一時間立って園児を迎える。卒園生のお父さんと8月の小学生卒園生を迎える一泊キャンプの打ち合わせ。幼稚園に募金してくれた方々にお礼の領収書の葉書を作り、設置者の牧師さんにお礼の一言をいれていただく。色々な場面で多くの人に支えられていることに感謝である。時代の趨勢とはいえ、小さな幼稚園は台風のような雨、風であるが、保育内容を深め、園児、保護者に共に寄り添いながら歩みたい。午後から、職員会議。この時間は少々疲れている。老いた。老いた。最後で、園の戸締りをして、雨の激しい中を帰宅。ノンアルコールビール一本買って。木）明日、東京のルーテル羽村幼稚園と病気の方の訪問で東京に行くのだが台風が気になる。そこで何が起きても良いように今日までに主日の準備。松崎保育で聖書の学び、子ども礼拝。今週は水曜日、木曜日と礼拝説教。久しぶりに牧師の仕事(笑)甘木教会に行き台風の備えをする。只今、大雨。

